

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(5年計画の1年目)

1. 研究課題

東方文化研究所旧蔵漢籍の整理と研究

A Bibliographic Research Project on Old Chinese Books

Previously Housed at the Institute of Oriental Studies

2. 研究代表者氏名

矢木 毅

YAGI, Takeshi

3. 研究期間

2021年4月-2026年3月(1年目)

4. 研究目的

旧東方文化学院の解散にともない、同学院の京都研究所は1938年4月に東方文化研究所として独立した。今日の人文科学研究所東方学研究部（東アジア人文情報学研究センター）の前身である。旧蔵の漢籍はすべて東方学研究部に継承されており、特に『東方文化学院京都研究所漢籍目録』（1938年）より以降の収書内容は、『東方文化研究所續増漢籍目録』（1941年）によって詳細に知ることができる。

本研究班はこの『續増漢籍目録』に掲載された漢籍の書誌情報を再吟味し、これに詳細な典拠情報を加えることによって、現行の電子目録（KANSEKI）の情報精度をさらに向上させることを目的とする。具体的には、序跋等のテキスト・データを含めた「典拠情報」を作成して逐次インターネットにより発信し、蔵書印については図録を作成して刊行する。

来るべき100周年の節目に向けて、近代東アジアにおける学知の原風景を探り、漢籍をめぐる学術史の再構築を進めるべく、各種の展示会、企画展なども開催したい。

In April 1938, following the dissolution of the Oriental Studies Academy, the old Kyoto Institute associated with that academy became independent and was renamed the “Institute of Oriental Studies,” which has since developed into the “Department of Oriental Studies of the Institute for Research in Humanities, Kyoto University.”

The present institute has inherited all of the old Chinese books that were previously housed in the old one, and details of those historical collections can be viewed in the Catalogue of Old Chinese Books Housed at the Kyoto Institute of Oriental Studies Academy, published in 1938, and in the Additional

Catalogue of Old Chinese Books Housed at the Institute of Oriental Studies, published in 1941.

Our research project re-examines the information in these catalogues and attempts to enhance the accuracy of the KANSEKI database—an online catalogue based on former catalogues. The project involves creation of an additional database covering prefaces and postscripts of the books. It will also involve collection of information about ex-libris ownership stamps and their publication in pictorial books.

In the near future, as part of the 100th anniversary of the institute, exhibitions will be held with the objective of reviewing and restructuring oriental studies in Japan.

5. 本年度の研究実施状況

前期は4月21日から7月28日まで（計13回）、後期は10月13日から1月26日まで（計13回）、合計26回。コロナ禍のため、すべてオンライン（Zoom）で開催した。

6. 本年度の研究実施内容

2021-04-21	東方文化学院京都研究所漢籍目録	集部別集類金元之属	発表者	矢木毅
2021-04-28	東方文化学院京都研究所漢籍目録	集部別集類金元之属	発表者	矢木毅
2021-05-12	東方文化学院京都研究所漢籍目録	集部別集類金元之属	発表者	矢木毅
2021-05-19	東方文化学院京都研究所漢籍目録	集部別集類金元之属	発表者	高井たかね
2021-05-26	東方文化学院京都研究所漢籍目録	集部別集類金元之属	発表者	高井たかね
2021-06-02	東方文化学院京都研究所漢籍目録	集部別集類金元之属	発表者	高井たかね
2021-06-09	東方文化学院京都研究所漢籍目録	集部別集類金元之属	発表者	永田知之
2021-06-23	東方文化学院京都研究所漢籍目録	集部別集類金元之属	発表者	永田知之
2021-06-30	東方文化学院京都研究所漢籍目録	集部別集類金元之属	発表者	永田知之
2021-07-07	東方文化学院京都研究所漢籍目録	集部別集類金元之属	発表者	福谷彬
2021-07-14	東方文化学院京都研究所漢籍目録	集部別集類金元之属	発表者	福谷彬
2021-07-21	東方文化学院京都研究所漢籍目録	集部別集類金元之属	発表者	福谷彬
2021-07-28	東方文化研究所続増漢籍目録	経部経注疏合刻類	発表者	藤井律之
2021-10-13	東方文化研究所続増漢籍目録	経部易類	発表者	古松崇志
2021-10-20	東方文化研究所続増漢籍目録	経部易類	発表者	古松崇志
2021-10-27	東方文化研究所続増漢籍目録	経部易類	発表者	古松崇志
2021-11-17	東方文化研究所続増漢籍目録	経部書類	発表者	宮宅潔
2021-11-24	東方文化研究所続増漢籍目録	経部書類	発表者	宮宅潔
2021-12-01	東方文化研究所続増漢籍目録	経部書類	発表者	宮宅潔

2021-12-08 東方文化研究所続増漢籍目録 経部書類 発表者 矢木毅
2021-12-15 東方文化研究所続増漢籍目録 経部書類 発表者 矢木毅
2021-12-22 東方文化研究所続増漢籍目録 経部書類 発表者 矢木毅
2022-01-05 東方文化研究所続増漢籍目録 経部書類 発表者 高井たかね
2022-01-12 東方文化研究所続増漢籍目録 経部書類 発表者 高井たかね
2022-01-19 東方文化研究所続増漢籍目録 経部書類 発表者 高井たかね
2022-01-26 東方文化研究所続増漢籍目録 経部書類 発表者 永田知之

7. 共同研究会に関連した公表実績

『和刻本十選』と題する図録を東アジア人文情報学研究センターより刊行し、リポジット
リ紅にも掲載した。また「印譜の会」の名義で連続セミナー「はんこの文字の話」（オン
ライン）を開催し、8月26日、9月2日、9月9日、9月16日の4回にわたって、学
生及び一般市民、のべ75名（スタッフを除く）の来聴を得た。

8. 研究班員

所内

矢木毅、高井たかね、永田知之、藤井律之、福谷彬、古松崇志、宮宅潔、瞿艷丹、楊維公
学内

道坂昭廣(人間・環境学研究科)

学外

小野木聡(大谷大学文学部)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
学内(法人内)	2	2	0	2	2		40	0	40	40	
				(2)	(2)		(20)		(40)	(40)	
国立大学											
公立大学											
私立大学	1	1		1	1		20		20	20	
大学共同利用機関法人											
独立行政法人等公的研究機関											
民間機関											
外国機関											
その他 ※											
計	3	3 (0)	0 (0)	3 (2)	3 (2)	0 (0)	60 (20)	0 (0)	60 (40)	60 (40)	0 (0)
※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員 無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要											

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

なし

11. 費目の30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

12. 次年度の研究実施計画

引き続き『続増漢籍目録』所収漢籍の悉皆調査を進め、その成果を「典拠情報」にまとめて公開する。

13. 次年度の経費

なし

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

『京大人文研蔵書印譜』および『十選』シリーズなどの図録を引き続き刊行し、研究所の百周年を目途にその成果をまとめた企画展を開催する。